

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	社会（歴史）
第 1 推薦	2 東書
第 2 推薦	1 1 6 日文

（社会：歴史） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東書	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は9点あり、古代1点、中世2点、近世3点、近代3点の内訳となっている。近世・近代での出典数が多い。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史へのとびら」の「2節 身近な地域の歴史」において、調べ学習の「テーマ設定」、「調査」、「考察」に向けての手順とポイントを示している。
	観点 3	・総ページ304、歴史との対話12、古代44、中世36、近世50、近代102、現代32、その他28
	観点 4	・写真(133)絵図(85)地図(33)図表・グラフ(27)文書資料(44)年表(5)人物(56)（「近代の日本」での掲載数）
	観点 5	・「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア。「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四つの視点を示している。イ. 文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。ウ. 意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。
1 7 教出	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は7点あり、古代1点、中世1点、近世3点、近代1点、現代1点の内訳になっている。近世の出典数が多い。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」の「2節 身近な地域の歴史を調べよう」において、調べ学習の「テーマを決めよう」、「情報を集めよう」、「具体的な調査の課題を決めよう」と6つの例とともに手順とポイントを示している。
	観点 3	・総ページ310、歴史との対話15、古代42、中世36、近世50、近代108、現代36、その他23
	観点 4	・写真(123)絵図(86)地図(28)図表・グラフ(32)文書資料(21)年表(7)人物(51)（「近代の日本」での掲載数）
	観点 5	・「中世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア. 文章でまとめる前に、古代と中世を比較した表を、「政治」「外国との関係」「文化」の視点でまとめる学習活動を設定している。

46 帝国	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は18点あり、古代4点、中世4点、近世3点、近代7点の内訳になっている。「地域史」「環境」「交流」等に分けられている。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として「第1章 歴史のとらえ方と調べ方」の「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」において、「歴史の謎を探る～問いを作ろう～」、「資料をよく見てヒントを探してみよう」、「謎解きの答えをまとめよう」と調べ学習の1つの具体的事例を追って手順とポイントを示している。
	観点3	・総ページ306、歴史との対話13、古代44、中世36、近世54、近代108、現代30、その他21
	観点4	・写真(136) 絵図(85) 地図(40) 図表・グラフ(38) 文書資料(2) 年表(4) 人物(53) (「近代の日本」での掲載数)
	観点5	・「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにし、2つの学習活動を通じて文章にまとめる。ア. 身分や職業について、「タテ(支配)とヨコ(対等)の関係図を作ってみよう。」という問いに対して、図で自分の考えをまとめる。イ. 「なぜ、『武士』と『庶民』はそれぞれの結び付きを強めていったのか」等の問いに対して、話し合いをする。
81 山川	観点1	・国際社会で主体的に生きていくため基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は10点あり、古代3点、中世4点、近世1点、近代2点の内訳となっている。古代・中世の出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史との対話」の「2節 身近な地域を調べよう」において、「テーマを設定しよう」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」とイラストとともに調べ学習のポイントを示している。
	観点3	・総ページ294、歴史との対話9、古代48、中世40、近世52、近代100、現代30、その他15
	観点4	・写真(151) 絵図(86) 地図(35) 図表・グラフ(37) 文書資料(19) 年表(3) 人物(49) (「近代の日本」での掲載数)
	観点5	・4つの立場(人)を示し、それぞれの立場で問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア. 「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。イ. 自分の考えは、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つに時代区分のそれぞれでまとめる。
116 日文	観点1	・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は11点あり、古代2点、中世2点、近世4点、近代1点、現代2点の内訳になっている。近世の出典数が多い。
	観点2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、各章に「でかけよう! 地域調べ」を設定し、各時代における事例をもとに、現地調査による調べ学習のポイントを示している。
	観点3	・総ページ328、歴史との対話8、古代50、中世42、近世52、近代102、現代38、その他36
	観点4	・写真(105) 絵図(78) 地図(35) 図表・グラフ(37) 文書資料(31) 年表(38) 人物(49) (「近代の日本」での掲載数)

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中世に定められた主な『法』に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを3つのステップでまとめる。ア. 「古代と中世の主な法にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。イ. 「なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。ウ. 中世の特色を、文章にまとめる。</li> </ul>
227 育鵬社	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は8点あり、古代4点、近代3点、現代1点の内訳になっている。古代の出典数が多い。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、序章と第4章に「地域の歴史を調べてみよう」を設定し、それぞれ1つの事例をもとに具体的に調べ学習のポイントを示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ314、歴史との対話13、古代50、中世34、近世52、近代102、現代33、その他30</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真(89) 絵図(74) 地図(34) 図表・グラフ(36) 文書資料(17) 年表(10) 人物(77) (「近代の日本」での掲載数)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話合うために5つの活動を設定している。ア. 年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。イ. 戦いについての整理をする。ウ. この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。エ. 歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。オ. 暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考に説明する。</li> </ul>
229 学び舎	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は16点あり、古代2点、中世4点、近世4点、近代3点、現代3点の内訳になっている。中世・近世の出典数が多い。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「歴史への案内」を設定し、地域の博物館での調べ学習や現地調査における、学習のポイントを示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総ページ306、歴史との対話6、古代44、中世32、近世50、近代110、現代36、その他28</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真(155) 絵図(72) 地図(33) 図表・グラフ(22) 文書資料(1) 年表(1) 人物(38) (「近代の日本」での掲載数)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どのような人びとが力をもった時代だったでしょうか。前の時代と比べながら、自分の考えを文章にまとめましょう。」と、視点を示した問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</li> </ul>